

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称	施策Ⅲ-1-2 発達段階に応じた教育の振興
---------	-----------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	学校企画課長 高橋 泰幸	電話番号	0852-22-5408
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	中学校クラスサポート事業		
目的	(1) 対象	大規模中学校1年生	
	(2) 意図	中学校1年生が充実した学校生活を送れるようにする。	
事業概要	対象校の第1学年を対象に、生徒一人一人に対する学習指導と生活指導充実のための支援体制を構築するため非常勤講師を配置する。		

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			式・定義	中1生徒の不登校者数	目標値	145.00	135.00	
	中1生徒の不登校者数	実績値	157.00	132.00	159.00	130.00		
		達成率		91.00	117.80	102.40		%
指標名	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位	
		目標値	0.00	0.00	0.00	0.00		
式・定義		実績値	0.00	0.00				
		達成率		0.00	0.00		%	

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	75,058	84,213
うち一般財源 (千円)	50,451	56,598

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	③改善策を検討中
---------------------	----------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

・生徒指導上の問題を多く抱えがちな大規模中学校の中から14校を指定し、第1学年に2学級あたり1名の非常勤講師を32名配置した。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

- ・授業において、支援の必要な生徒に対して適切な支援を行うことができた。
- ・休憩時間において、生徒を近くで見守ることにより、トラブルを予防したり早期対応を行ったりすることができた。
- ・教員とは異なる立場にあり、生徒が気軽に相談をすることができ、問題行動等を未然に防ぐことにつながった。
- ・教員と非常勤講師とが連携して指導にあたったことで、よりよい学級づくりにつながった。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

・大規模校中学校を対象としているが、配置要件を3学級平均31人以上としているため、学年としての規模が大きくても35人学級編制となりCST配置の要件を満たさなくなった学校もあった。必要としている学校に対して十分に配置できず、中学校1年生の対応に困難を抱える学校がある。

②困っている状況が発生している「原因」

- ・小学校から中学校への大きな環境の変化に対応できない生徒が増えていること。
- ・不登校や問題行動等につながる個々の悩みやトラブルが起きやすい状況にあること。

③原因を解消するための「課題」

- ・日常的な業務の過多により担任や教科担当教員だけでは、生徒理解や個に応じた対応が十分に行えない状況にある。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

・各学校の実態を十分に把握した上で、必要とする中学校に配置できるよう配置要件についての検討を行い、より効果的な非常勤講師配置を行う。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）